

研究機関：広島大学

研究課題名	血小板減少合併妊娠症例の検討
研究責任者名	広島大学病院血液内科 教授 一戸辰夫
研究期間	平成28年5月13日(倫理委員会承認後)～平成30年12月
対象者	平成18年1月から平成27年12月の間に、広島大学病院産婦人科で出産された女性のうち、血小板減少を合併した患者さん。
意義・目的	<p>妊娠中には約7～10%で血小板減少がおこるといわれています。そのうち約70～80%は妊娠性血小板減少症といって血小板数は5万/μL以上で推移し、妊娠終了とともに自然に治ります。しかし、特発性血小板減少性紫斑病（ITP）などを合併することもあり、その場合は血小板数が3万以下にまで減少し、妊娠中や分娩時に特別な治療が必要となります。特に妊娠前の血小板数が不明である場合には、妊娠性血小板減少症とITPとは非常に区別が困難です。より安全な妊娠と出産のために血小板減少の原因診断が重要です。</p> <p>本院での血小板減少合併妊娠例について、妊娠中の血小板の数や治療の有無と有効性、妊娠後の経過、次回妊娠時の血小板数などを詳細に検討することにより、妊娠性血小板減少症とITPの違いを明らかにするため、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は 生年月、血液検査（血小板数）、治療の方法と効果、分娩方法、子供に血小板減少があるかどうか、などです。</p> <p>（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p>
共同研究機関	なし
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel：082-257-5861 広島大学病院 血液内科 杉原清香</p>